

「三ヶ島のぶどう狩り」をたのしむ

2020-09-09 記 小倉洋一

■実施日：2020-09-03(木) ■参加者：9名 ■場所：三ヶ島
中山ぶどう園

9月になっても連日の真夏日が続く中、当サークルの活動が3月以降コロナ感染拡大により中止となっていたが、感染症対策と熱中症対策に万全を期してぶどう狩りを実施した。

9時30分小手指駅に集合、早稲田大学行バスに乗り10分程で大日堂のバス停に到着。中山ぶどう園まで徒歩で20分かかる道中では、(歓迎 狭山湖畔でぶどう狩り 三ヶ島ぶどう組合)の看板に迎えられる。

その先には古からの村の鎮守の八幡神社がある。西参道鳥居を左にみて5分ほど歩くと、狭山丘陵の南斜面に広がる中山ぶどう園に到着、入り口で中山さんのお出迎えがあり、ぶどう棚の下で試食のベリーAをつまみながら、ぶどう農家の説明に聞き入った。

狭山湖畔の観光ぶどう農家は当初16軒であったが、後継者不足などで現在は5軒となっている。気候に左右されやすい果物や野菜などは、サラリーマンなどの安定志向を目指す若者の、後継者不足の一因となっている。

今年のぶどうは7月の長雨と8月の猛暑で例年より収穫は落ち込んでいる。品種も多様になってきており、今までは巨峰・スチューベン・ベリーA・紅伊豆・ヒムロット等であったが最近シャインマスカットが人気となっている。

ぶどう農家の1年間。

12月～1月・・・剪定、3月～4月・・・棚の手入れや芽欠き、7月・・・小さい粒を落とす、袋掛け、

8月～9月・・・収穫、10月～11月・・・土づくり、

1年間の作業で機械に頼ることはほとんどなく、人手による作業で人海戦術が必要とされている。

昼食はぶどうの棚の下で試食のぶどうを食しながら、各人持参の弁当をいただく。

昼食後、自宅や近所へのお土産として大きな房のぶどう、ナスやジャガイモなどの野菜

を市価より安く購入して帰宅の途に就いた。

今年のサークル活動はコロナ禍の影響で自粛を強いられ、残り3ヵ月余となったが、できる限り感染防止に気をつけて活動を進めていきたい。



三ヶ島近辺のサークル活動で何度か、八幡神社の西参道の鳥居をみての散策を行っていたので、由緒を調べてみた。

※三ヶ島八幡神社の由緒

狭山丘陵の西北に八幡社あり、応神天皇（誉田別尊）を祀る。地は三ヶ島に属す。

往古元和癸亥9年（1623）4月10日、代々ここに住める郷民、鶴岡八幡宮より分祀勧請して一社となし、子孫の守護繁栄を祈願せり。郷民の崇敬、年を経て重畳、遂に宝暦辛巳11年（1761）11月大破、三ヶ島村を知行する旗本武蔵孫之丞、郷民とともに修覆普請、建立をなす。

匠の大工は武州比企郡吉見村長兵衛なり。社殿の御神体は文化庚午7年（1810）8月15日銘文の御神像を祀り、また御神鏡も安置せり、当社の例大祭は10月中旬、なお、郷民の初宮詣、七五三、病氣平癒、豊作祈願など、崇敬泰山の如し。

（境内掲示より）